

平成26年10月6日

No. 124

(創業に向けて 会計編)

創業すれば、会計帳簿を作成しなければなりません。昔は手書きであり簿記も知らなければ、会計帳簿の作成を会計事務所へ依頼するというケースが多数でした。20年前位から多くの目録化会計ソフトが販売され、簿記も知らなくても、自社で会計帳簿を作成できる様になりました。会計ソフトも低廉化しています。今、クラウド化が加速しています。それも自動仕訳型のクラウド会計ソフトがこれからの主流となることです。パソコン会計は、仕訳を入力するが、仕訳の前段階のデータ(預金通帳、領収書)を捉えて、仕訳に自動変換する。そしてイメージも記憶していく。記憶することで省略していきます。簡単に仕事を終わらせる。価格も安いです。手間もかからず、費用も安くできます。会計事務所へ毎月お願いするのではなく、安全のために確定申告だけの依頼。会計に時間もお金も使いません。これは企業にとってメリットでしょう。コスト削減はできています。日本が発展したのは、簿記(商業学校)があったからだと言われています。日本資本主義の父 渋沢栄一「論語と算盤」も著しています。これから経済活動をしていく経営者が、会計を簡単に手間と時間をかけずに、自動仕訳で処理してほしい。会計の専門家に、税金のことだけで年1回の面談をください。

私の経験からですが、30~40年前年1回確定申告だけの会社がありました。多くは業績の良い会社です。会社内(経営者)が簿記も知っていて会社で帳簿も作成していました。会計ソフトも使うから(簿記知識も低い)年1回でいいよ。会計事務所の支払は無駄だ、で好業績が続いている会社は知りません。当初の支払いは、払える金額がいいです。それより、簿記も知って、会社を発展させ、良い業績を上げるのが必要です。毎月のつきあいをしなさい。

高林幸裕